24　次の詩は白居易の「中隠」という作品である。よく読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名や返り点を省略した箇所がある。

〈岐阜大〉二〇一九年度出題

大 　 　㆓　朝 　㆒ 小 　 　㆓　丘 　㆒

丘 　 　 　冷 　落 朝

ａ不レ　如 　㆓　中 　㆒ 　㆓　留 　 　㆒

１レ　 　似レ　 レ　 　 　レ

不レ　㆓　 　一レ　力 　㆓　 　一レ〔　Ａ　〕

レ　 　㆓　公 　事㆒ レ　 　㆓　俸 　銭㆒

２君 　若 　好 　登 　臨 城 　南 　有 　秋 　山

君 　 　㆓　遊 　㆒ 城 　 　㆓　春 　園㆒

君 　 　㆓　一 　㆒ 　 　㆓　賓 　㆒

洛 　中 　㆓　君 　子㆒ ㆔　 　㆓　歓 　㆒

君 　 　㆓　高 　㆒ ｂ但 　 　 　レ

　㆔　車 　 　 造 　 ㆓　門 　㆒

人 　生 　㆓　一 　㆒ 　道 　㆓　 ㆒

　㆓　凍 　㆒ 　㆓　憂 　患㆒

　 　中 　 　 レ　 　 ｃ且

３窮 　 　与㆓　豊 　約㆒ 　㆓　四 　 　㆒

（『白氏文集』による）

（注）

丘樊…山中。

囂諠…騒々しい。

留司官…ここでは洛陽勤務の官をさす。

賓筵…宴席。

造次…気ままに。

餒…飢え。

問１　二重傍線部ａ～ｃの読みを、送り仮名も含めて、平仮名で記せ。仮名遣いは問わない。

問２　〔　Ａ　〕に入る最も適切な漢字を次から選べ。

ア　苦　　イ　乱　　ウ　餓　　エ　渇　　オ　寒

問３　傍線部１を現代語訳せよ。

問４　傍線部２をすべて平仮名で書き下し文にせよ。仮名遣いは問わない。

◎問５　白居易は「大隠」と「小隠」をどのように認識しているのか、わかりやすく説明せよ。

◎問６　傍線部３を踏まえて、自居易は「中隠」の良さがどのようなところにあると考えているのか、わかりやすく説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝しかず　　ｂ＝ただ　　ｃ＝かつ

問２　オ

問３　中隠はＡ街中にいるようでもあり、Ｂ山中にいるようでもある。

ＡとＢの内容が並列されていることが必須。「中隠は」はなくても可。「似」を「似ている」などと直訳しているものは全体から減点２。

Ａ＝５〔「出」は「出仕している」などと訳していても可。〕

Ｂ＝５〔「処」は「隠居している」などと訳していても可。〕

問４　きみもしとうりんをこのまば　なんにざんあり

問５　Ａ大隠は騒々しい街中に暮らして多忙な日々を送り、Ｂ小隠は物静かな山中に隠棲し、飢えと寒さに苦しむと認識している。

Ａ＝５〔街中は騒々しいという内容がなければ減点２。街中の暮らしは忙しいという内容がなければ減点２。〕

Ｂ＝５〔山中は物静かだという内容がなければ減点２。山中の暮らしは衣食に困るという内容がなければ減点２。〕

問６　　中隠はＡ困窮と栄達、富貴と貧賤の中間に位置するような存在であり、Ｂ俗事に煩わされず、適度な収入があるため、Ｃ悠々自適の生活を送ることができるところ。

Ａ＝４〔「四者」の内容が示せていれば可。「困窮」「栄達」「富貴」「貧賤」がなければ一つにつき減点１。〕

Ｂ＝４〔隠遁生活を送るがゆえの利点がなければ減点２。官職に就くがゆえの利点がなければ減点２。〕

Ｃ＝２〔好きな時に好きなことができるという内容が書けていれば可。〕

【書き下し文】

はにみ　隠はにる

丘樊はだ　朝市は太だ

問１ａかず隠とり　れてのにるには

づるにてたるに似　にずたに非ず

ととをせず　たゑととをる

をはるまでく　にひてり

問４しをまば　に有り

君若しをせば　城に有り

君若しせんとせば　にでてにけ

中く　てをにすべし

君若しせんと欲せば問１ｂだ らくをへ

亦たのの　としてにる無し

一に処り　のつながらうしし

なればちにしみ　なればち多し

だの中隠ののみ　をすことにして問１ｃつし

とと　にのに在り

【現代語訳】

大隠は都心に住み、小隠は山中に住む。

山中は過度にさびれていて、都心は過度に騒々しい。

中隠となり、ひっそりと洛陽勤務の官に就いているのが一番よい。

問３中隠は街中にいるようでもあり、山中にいるようでもあり、忙しいこともなく、暇を持て余すほどでもない。

肉体も精神も疲労することなく、衣食にも不自由することがない。

一年中役所での仕事に追われることがないのに、毎月給料はもらえる。

あなたがもし山登りが好きなら、町の南には秋の山がある。

あなたがもし行楽が好きなら、町の東には春の公園がある。

あなたがもし一杯飲みたいなら、時折宴席に顔を出せばよい。

洛陽には徳の高い立派な人が多く、いつでも自由に話ができる。

あなたがもし一人で寝そべっていたいなら、自分で門を固く閉ざせばよい。

また馬車に乗った客人が、気ままに訪問してくることもない。

人間は一生の間に、二つの道を全うすることは難しい。

貧しければ飢えや寒さに苦しみ、貴顕なる身には心労がつきまとう。

ただこの中隠だけが、幸多く安らかな人生を送ることができる。

困窮と栄達、富貴と貧賤、まさしくこの四者の間に中隠は存在する（のだから）。